

「医科・歯科統合医療」事始め

堀田 修クリニック—HOC— 堀田 修

堀田 修クリニック 〒984-0013 宮城県仙台市若林区六丁の目南町 2-39

医療の近代化は臓器別医療に象徴されるように細分化とともにあった。その結果、多くの疾患において分子・遺伝子レベルまで研究が進み多大な医学の学問的進歩がもたらされた。

しかしながらその一方で対象となる疾患の焦点の狭小化は疾患を個体の側から俯瞰して捉える視点の欠落をもたらした。例を挙げると、咽頭炎に伴い血尿が悪化することをIgA腎症患者は特徴としているが、IgA腎症の研究において腎臓専門医は腎臓にのみ焦点が集中し、非専門の耳鼻科領域である根本原因の咽頭には長い間、焦点が十分当てられなかつた歴史がある。今日の医療が進歩したにも関わらず「木を見て森を見ず」と揶揄され

る所以である。

医療の細分化と同様に医科と歯科の分離も医療・医学のピットフォールをもたらした。すなわち、生命維持に最も重要な食物の入り口である口腔が医科の焦点から欠落してしまつたのである。近年、臨床の場で医科・歯科連携の必要性が叫ばれてはいるがその実効性に関してはいまだ十分機能しているとは言い難い。

私たちは新しい試みとして2012年4月5日より「医科・歯科統合医療」を開始した。一年余経過した現時点においてもいまだ方向性を模索中であるが、活動を開始した背景や今後の展望を含め私たちの取り組みを紹介したい。

講師紹介

1957年生まれ

専門は腎臓病の診断学と治療学

2001年IgA腎症の根本治療である扁桃パルス療法を米国医学雑誌「Amj Kidny Disease」に発表

日本におけるIgA腎症の治療が激変するきっかけとなった。

仙台社会保険病院腎センター長などをへて2011年に堀田修クリニックを開院。

慢性腎臓病や糖尿病、膠原病などの治療の一環として内科の視点を取り入れた歯科治療を開始するなど、「木を見て森も見る医療」の実践に取り組んでいる。



堀田 修クリニック

<http://www.hoc.ne.jp>